

奈良大学OPEN CAMPUS

雅楽鑑賞・体験会

- 1 日時 令和6年7月28日(日)
- 2 場所 奈良大学 講堂 (1階800席、2階200席)
- 3 出演 奈良大学雅楽研究会、三和会(雅楽研究会OB・OG)

4 プログラム

〔1部〕 12時00分～12時40分

I 鑑賞の部

〔管絃〕 平調 音取
平調 越殿楽

〔舞楽〕 蘭陵王

II 体験の部

鑑賞終了後は、楽器や装束を体験、見学して
頂きます。

〔2部〕 14時00分～14時40分

I 鑑賞の部

〔管絃〕 平調 音取
平調 陪臚

〔舞楽〕 迦陵頻

II 体験の部

鑑賞終了後は、楽器や装束を体験、見学して
頂きます。

5 解説

・管絃 平調(ひょうじょう) 音取(ねとり)

雅楽には6つの調子があり、平調は洋楽のE音に近い平調音を基音とする調子をいう。音取(ねとり)とは元来、演奏する各楽器の音調を整え和すことを目的として演奏したものが、次第に演奏する管絃の曲を示し、その雰囲気をも兼ねてもたらず意味で前奏する短い曲をいう。

・管絃 平調 越天楽(えてんらく)

唐楽、平調、小曲、早四拍子、拍子二十、新楽。

越殿楽とも書く。渡物として平調から、盤渉調へ、盤渉調から黄鐘調に移調されている。

舞は無い。平調の曲が原曲で最もよく知られている。

今様や黒田節、キリスト教の日本賛美歌にまでメロディが用いられている。

・管絃 平調 陪臚(ばいろ)

林邑八楽の一つで、正しくは陪臚破陣楽と呼ばれる武舞の曲である。初め舞楽として天平年間に林邑僧仏哲と印度僧婆羅門とによって伝えられた。本日はこの曲を舞を伴わない管絃形式で演奏する。管絃は、只拍子(六拍子―二拍子と四拍子)で演奏する。

・舞楽 蘭陵王(らんりょうおう)

中国・北齊の王、蘭陵王高肅(長恭)という勇将が戦の終わったとき、諸軍士と平和を寿いで舞われたといわれている。奈良時代、天竺の僧、菩提僊那と林邑の僧、仏哲が我が国に伝えた林邑八楽のひとつとされる。

高肅は美男子であったため、戦場に赴くときは、いつも恐ろしい面をつけて軍を指揮し、その武勇は各国にとどろいていたという。

・舞楽 迦陵頻(かりょうびん)

奈良時代に林邑(今のベトナム地方)の僧仏哲が伝えた林邑八楽の一つに数えられる印度系の舞である。説話によると、祇園精舎の供養の日に極楽にいるという霊長・迦陵頻伽が飛んできて舞ったのを妙音天が舞に作ったという。

6 その他

奈良大学雅楽研究会は奈良大学文化会クラブとして、1300年前から受け継がれる日本の伝統音楽である「雅楽」を体験しながら楽しく学ぶとともに、入学式等の式典、青垣祭(大学祭)、寺社での奉納演奏など、幅広く活動しています。

ほぼ全員が初心者から始め、11月の青垣祭演奏会に1回生も参加しています。